



坂製作所・坂栄孝社長

「当社はいい時も悪い時も、元請企業の景況や事業計画の変更などといった外的要因に左右され続ける歴史でした」こう語るのは、京都で切削加工を手がける坂製作所の坂栄孝社長。

坂製作所

扉の先 自動化時代の挑戦者たち

1960年創業の同社は、京都に製造拠点を置く主要大手メーカーの「当社はいいい時も悪い時も、元請企業の景況や事業計画の変更などといった外的要因に左右され続ける歴史でした」こう語るのは、京都で切削加工を手がける坂製作所の坂栄孝社長。 1960年創業の同社は、京都に製造拠点を置く主要大手メーカーの「当社はいいい時も悪い時も、元請企業の景況や事業計画の変更などといった外的要因に左右され続ける歴史でした」こう語るのは、京都で切削加工を手がける坂製作所の坂栄孝社長。

空圧ハンド向けエアコンプレッサ

耐久性と静穏性を高レベルで両立

ン方式のものが構造的にも簡単でかつ、低コストで製造できる。一方で振動と騒音が大きめというデメリットがある。これを自動化設備の近くに置いて使うとなると、正確な位置決めが出来なくなり、現実的に運用は難しい。 同社が開発を進めたのは、耐久性と静穏性に優れた、超低振動のスクロール式コンプレッサ。スクロール式に求められるのは、内部の機密性を保てるよう、渦巻き形状の固定スクロールの精密加工。耐久性まで確保するとすると、ミクロン単位の絶妙なすり合わせが必要となる。 こうした技術的課題を乗り越え、さらに独自開発の技術要素が、コン



超小型コンプレッサとスクロール内部



プレッサの劣化の原因となるチップシール材を必要としない「チップシールレス化」を実現。通常のスクロールコンプレッサより耐久性の高い製品が完成した。 かくして2014年に出来上がったのが超小型コンプレッサ「m o t e c o n」。2022年の現在までにブラッシュアップを重ね、現在は151×144×220・5ミリの重さ4キログラムと手のひらに乗せられるサイズへと進化している。 稼動時に発生する音量はわずか43デシベル。これは図書館や静かなオフィスと同レベルの静粛性でもある。さらにはほとんど振動しないため、ロボットの架台に載せての運用を可能にしている。 こうした新たな取り組みが評価され、同社は近畿経済産業局主催「関西ものづくり新撰」、京都商工会議所主催「知恵ビジネスプランコンテスト」など多数の受賞を果たす。さらにはエア機器で世界有数のシェアを誇るメーカーが、坂製作所の扉を叩く。 「メーカー様は「うちでもこういったコンプレッサを作ったかったが、

「当社コンプレッサなら、使用したい部分だけにエアを送る分散方式にでき、大幅な省エネになります。すでに頻りにライン変更が行われる大手自動車メーカー様の製造現場に採用いただいております」 自動化、脱炭素化の波を捉えサプライヤーから「メーカー」への進化。技術力に優れる中小企業ならではのサクセスストーリーとなるだろうか。

Memo

坂製作所

1960年設立 社員12人
京都府京都市右京区花園伊町44-12
精密部品加工及び製品開発・製造・販売

同社のメイン事業は生産設備・自動機等の部品加工・組立、試作。いずれも高精度かつ短納期で対応できる強みを持つ。またより高度なノウハウが求められる中ロット生産品も請け負っている。こうした中、小型コンプレッサの心臓部でもあるスクロール部分の切削は、従業員が帰ったあとの夜間運転でまかなっている。「日中はサプライヤー、夜はメーカーです」(坂社長)

Heat Media 日本物流新聞

THE NIHON BUTSURYU SHINBUN

2022年 9月25日

No.1512号

(10日・25日の月2回発行)

発行所 株式会社 日本物流新聞社 ©

本社 〒550-8660 大阪市西区立売堀2-3-16
TEL.(06)6541-8048(代) FAX.(06)6541-8056
E-mail: nb-osaka@nb-shinbun.co.jp
ホームページ http://www.nb-shinbun.co.jp/

東京支社 〒108-0075 東京都港区港南2-14-14 品川インターシティフロントビル3F
TEL.(03)6712-1391(代) FAX.(03)6712-1398
E-mail: tokyo@nb-shinbun.co.jp

購読料 年間9,240円(消費税込) 振替口座00910-3-23940

「つながる」のその先に...
～測るでつながる 測るでみまもる～

Mitutoyo



HEADLINE

9 工場訪問:ミットヨ 志和工場
原点回帰 国産の力で挑む

10~13 オンライン座談会
こんなに変わった!
ロボット導入環境

14~21 これからのモノづくりに必要な生産財

充実する協働ロボット・AGV・エンドアームツール



EV、DX、GXへの対応が迫られている。この動きは労働人口の減少から近年急務となっている生産性向上、自動化や脱炭素への対策として加速しているように見える。2号連続特集の第2弾としてロボット、マテハン、切削工具、新素材を取り上げる。

次号は

次号は10月10日の発行です。特集面では「働き方改革」にフォーカスし、「企業と働き手」の双方に貢献する設備やソリューションについて、またワークライフバランスを実現する企業の取り組み事例について複眼的に綴ります。消費財面では暖房シーズンを控え「あったか・安心・便利な冬物アイテム」を企画特集します。

次号から弊紙は、より見やすく、カラーが映えるよう新聞用紙を白色系の強いタイプに変更します。引き続きご愛読の程、お願いいたします。